

特記仕様書（ローイング競技）

共通項目

- ・仮設物等の仕様・規格については、下記記載のものと同等品以上のものとする。
- ・持込備品が既存備品に紛れることがないようステッカー等で明示すること。
- ・設置するOA機器等については使用者（市実行委員会、主管する競技団体役員等）に応じて操作方法等の説明を行うこと。
- ・既存備品を移動した場合は、競技会終了後、常設の場所へ戻し、原状に回復すること。
- ・作業で発生した資材の残材は全て持ち帰ること。

No	名称	仕様・規格	特記事項
1	単管ラック	1800×2500mm	<ul style="list-style-type: none"> ・単管組施工とし、十分な安全対策及び養生を行うこと。 ・オールが触れる単管部分には、オールが傷つかないよう緩衝材を用いて養生を行うこと。 ・単管の先端部分は怪我をしないよう養生を行うこと。
2	平台	W1800×D900×H100	<ul style="list-style-type: none"> ・へこみ、傷、ゆがみ、汚れ等のないものを用意すること。
3	カラー合板	900×1800mm t=12mm ウレタン塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・へこみ、傷、ゆがみ、汚れ等のないものを用意すること。
4	デジタル体重計	秤量150kg 目量50g	<ul style="list-style-type: none"> ・定期検査済みで合格シールがあること。 ・へこみ、傷、ゆがみ、汚れ等のないものを用意すること。
5	扇風機	工場扇 羽径40cm以上の三脚式	<ul style="list-style-type: none"> ・へこみ、傷、ゆがみ、汚れ等のないものを用意すること。
6	コース整備	B級公認 コース設備	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人日本ローイング協会ローイングコース規格規則に基づくB級公認コース対応のコースとする。 ・ローイングコースは1000mコースとする。 ・競技レーンは、5レーン（レーン幅13.5m） ・競技レーンと回漕レーンの間に航行禁止レーンを設けること。 ・回漕レーンは、2レーン（レーン幅13.5m以上）とする。 ・5レーンと回漕レーンの外に外境レーンを設けること。
7	コース整備	ブイ	<ul style="list-style-type: none"> ・艇やオールに損傷を与えるおそれのない、柔軟な材質とする。 ・コース境界ブイは赤色及び黄色のφ150以下とする。 ・レーンブイは0mと1000mには設置しないで1005mに設置する。 ・各レーンには250m毎に色の異なるブイ（赤）を設置する。 ・ゴールフラッグブイは、ゴールライン後方5m地点の外境用ワイヤーに設置する。 ・距離表示板として、一边を1mとする立方体の大型ブイ（側面4面に発艇線を0として発艇線からの距離を明記する。250m、500m、750m各2個）を外境レーンに設置する。 ・各種ブイはレンタルとして用意し、常設のブイは回収し一時保管の上、カヌー競技会終了後に元に戻すこと。なお、以下に記載しているブイについても同様とする。
8	練習水域		<ul style="list-style-type: none"> ・練習コースはスタート側の水域に400mコースを4レーン+中間に衝突防止レーンを1レーン設置する。練習コースに関しても水中アンカー工法にて設置を行うこと。 ・ブイのサイズは150mm以下とし、コース境界ブイと区別する。
9	区域境界		<ul style="list-style-type: none"> ・水門側には網場が設置されているが、練習コースを漕いでいる選手がそちらに接触しないよう立入禁止措置をワイヤー&ブイにより設置する。 ・ゴール側後方には橋脚が存在する。橋脚まで選手が漕いでいくことのないよう橋脚手前に立入禁止措置をワイヤー&ブイにより設置する。
10	ステアリングマーカー		<ul style="list-style-type: none"> ・スタートライン後方にコース境界ブイを5m～10m間隔で5個以上設置し、代用する。
11	スタートシステム (ステッキボート)		<ul style="list-style-type: none"> ・5艇分用意すること。 ・迅速かつ容易に前後に作動する機能を有すること。 ・艇首を正しく発艇線上に並べ得るように施工する。 ・固定は水中アンカーかワイヤーに固定する方法のどちらかで設置を行うが、アンカー設置箇所の地盤が法面になっている可能性があるためアンカーの強度を確認すること。ワイヤーに固定する場合は設置用の金具が取り付けてないため加工を行うこと。
12	計測システム		<ul style="list-style-type: none"> ・判定の映像は、競漕委員長席及び審判長席でも確認できるようにモニターをそれぞれ設置すること。 ・ゴール地点に写真判定用カメラタワーを設置すること。 ・カメラタワーは決勝判定席と独立したものとし、1から5レーンまで決勝ラインを通過する艇の先端が撮影（確認）できる必要な高さを確保すること。 ・写真判定用カメラには、逆光風雨対策を講じること。 ・決勝判定席にバックアップ用のスーパーストップウォッチを1台配備すること。 ・発艇台、決勝判定席にスロー再生が可能な資機材を設置すること。 ・計測ワイヤーとゴールスリットラインにずれが生じないように設置すること。 ・組み合わせ、レース結果、表彰に関する書類を作成すること。 ・決勝判定席及び中間判定席では競技情報を速やかに本部の競技団体へ通達する業務を行う人員を配置すること。なお、中間判定席は受託者のみで業務を行うこと。

特記仕様書（ローイング競技）

No	名称	仕様・規格	特記事項
13	各判定席		<ul style="list-style-type: none"> ・中間判定席、決勝判定席に関しては工事にて常設されているものを使用する。 ・線審席は、常設を解体し保管のうえ、大会終了後に復旧すること。 ・各判定席には見通しワイヤーが設置されているが大会前にワイヤーの位置調整や確認を行うこと。またワイヤーの設置方法に関しては市実行委員会に工法を確認してから設置を行う。 ・各判定席にシート等で雨避け、日よけ対策を施すこと。 ・各判定ラインにおいては工事の際に測量鈎が設置されているが、新たに大会を運営する上で必要な測量鈎が生じた場合、測量の上の設置や墨出しを行うこと。 ・各判定ラインにおいて対岸までの距離が遠いため、審判視準用の予備としてカメラ、モニターを用意すること。カメラ、モニターに関しては屋外使用のため防水仕様とする。
14	カメラタワー		<ul style="list-style-type: none"> ・カメラタワーは、仮設組立式とし、決勝ライン延長線上に設置する。また、決勝判定席と独立した安全な構造とし、全レーンを視認可能な高さ、位置で設置する・この時に転倒防止策などを強化する。
15	見通し板		<ul style="list-style-type: none"> ・中間、決勝ラインに関しては常設のものを使用する。 ・上記箇所は水位低下時に常設の見通し板の視準が困難となる。その際は1m×2mの見通し板を仮設で水面付近に設置する。こちらは増水が見込まれる場合は撤去する必要があるため設置、撤去が容易な工法で固定すること。 ・0m箇所の対岸においては水上見通し板が工事にて常設されている。日々の水位変動で水上見通し板の位置が動くため、大会当日に複数回トータルステーション等の測量機器により位置確認、調整を行い、補助的にモニターを設置し、モニターでスタートラインを確認できるようにすること。また、0mの対岸（堰堤上）には視準用のポールを固定すること。
16	ランドマーク	1レーンの表示寸法： 2m×2m	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークに関しては陸上設置が不可能なため、レーンナンバーを表示したゴール目標板を、決勝線後方の水上に5基分設置する。 ・なお、設置箇所の水深が深いため、アンカー位置やロープ長を考慮し、設置を行う。 ・素材は風の抵抗を考え、アルミパンチングメタルとする。
17	栈橋		<ul style="list-style-type: none"> ・各栈橋に係る必要数量目安（常設含む） ア）出艇用栈橋 ・4m×20mの栈橋2セット及び艇旋回スペース14m×24m イ）帰艇用栈橋 ・4m×20mの栈橋2セット及び艇旋回スペース14m×24m ウ）審判艇用栈橋 ・4m×20m 1セット エ）スタート審判用栈橋（水路委員、自衛隊用） ・2m×20m 1セット オ）緊急・応急用栈橋 ・2m×12m 1セット ※発艇台後方に連結させること。
18	発艇台	2階建, 階段, 雨除け, 日除け付き	<ul style="list-style-type: none"> ・水上フロート構造とし、スタートラインの後方に、風や波による揺れが無いようアンカーにて堅固に固定すること。 ・天幕や横幕など、必要な風雨、日除け対策を施すこと。 ・仮設トイレ(簡易水洗式トイレ)を1基以上設置すること。 ・設置位置は、測量点をもとに調整すること
19	映像関係		<ul style="list-style-type: none"> ・国体チャンネルに提供する動画の撮影を行うこと。 ・カメラはズーム機能付きの物を使用すること。 ・撮影箇所は、競技本部下スペース及びリギング広場の2箇所からの撮影とし、固定での撮影ではなく、選手を追って撮影できるようにすること。 ・撮影した動画は、リアルタイムで競漕委員長席、審判長席、放送室、一般休憩所で見ることが出来るようにすること。